

@日胆.com

10月下旬、苫小牧東部地域（苫東）の北端にある安平町遠浅の大島山林を取材で歩いた。国内最大級の工業基地の一角だが、未開発の森林が残り、近年はフットパスルートとして注目されて

きている。案内してくれたのは、NPO法人「苫東環境コモンズ」事務局の草刈健さんと、地元の遠浅自治

会会長の荒木徹さん。週末には風倒木の処理などに汗を流す「森の番人」だ。

コースは1周約4キロ。コナラやカエデなどの広葉樹

### 「癒やし」の森」再発見

が林立し、落ち葉が路上を厚く覆う。踏みしめると、ザクザクとした音が響き、クッションのようで心地よい。

入り口からすぐの所に、

苫東一の巨木ドロノキがあった。樹齢約100年。無数の枝を広げ、無言で風雪に耐える姿は、生命の力強さを教えてくれる。「林は

心を癒やすカウンセラ―」。草刈さんの言葉にうなずけた。

歩きながら、11年前に北見で取材した、樹齢250年のカシワを治療する樹木

医も同じことを言っていたと思ひ出した。「木に触ってごらん。生命のエネルギーがもらえる」。

近年は森林療法が注目されている。森林を歩くことで血圧低下やストレス解消になるという。苫東開発の失敗による「破綻の森」ではなく「癒やし」の森」。苫東の隠れた魅力を発見した1時間だった。

（俵積田雅史）